

2025 年度 学校関係者評価委員会 報告書および改善方策

【開催日時】

2025 年 5 月 20 日(火)13:00-15:00

【会場】

東京ベルエポック製菓調理専門学校 503 教室

【出席者】

① 学校関係者評価委員

森 章(高校関係者:拓殖大学紅陵高等学校 学校長)

古澤 美華(保護者代表)

村山 陽香(卒業生代表)

上野 紘(カフェ分野:一般社団法人日本スペシャルティコーヒー協会 SCAJ バリスタ委員会 副委員長)

竹内 浩(調理分野:ケーヨーリゾート開発合同会社 シェラトン・グランデ・トーキョー・ベイ・ホテル エグゼクティブシェフ)

② 学校関係者

井上 美津子

阿部 憲一郎

湯澤 愛

野崎 淳一

増田 哲平

飯田 修一

酒井 久義

林 夕起子

小倉 和馬

岡本 和大

大久保 茉奈

斎藤 真梨子

【欠席者】

田中 弘喜(近隣関係者:江戸川区仲町町会副会長)

牧野 成一郎(製菓分野:グランドニッコー東京ベイ舞浜 パストリーシェフ)

【目的】

学校として目指すべき重点課題を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等を評価することにより、組織的・継続的に学校運営を改善していくきっかけとする。

【議事録】

1、井上学校長挨拶

学校として自己点検・自己評価は外部のご意見をもとに自己点検・自己評価の精度を高めることが非常に重要である。自校評価だけでなく第三者の視点を取り入れる仕組みで、継続的な改善を図る。

2、委員自己紹介

評価委員の皆様より自己紹介をいただく

3、委員会の目的と流れの説明

学校側が実施した自己評価では「教育理念の実現状況」「学校運営」「教育活動」等、10 項目について評価を実施し、課題についても記載した。第三者評価にて「業界・高校関係者・地域住民・卒業生等」からの意見を集約し、改善に活かす。

4、2024 年度の自己点検・自己評価及び委員評価(阿部)

・自己評価について(10項目のポイントについて)

① 教育理念・目的・育成人材像について

学園の教育理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」のもと、業界で活躍できる人材を養成する。「人間教育」として、社会人スキルやコミュニケーション能力を学校生活で育成する。

また、保護者、高等学校、業界、地域からの「4 つの信頼」を得ることを目指す。

② 学校運営について

学校運営は事業計画に基づいて行われ、事業計画には組織目的(五年後、十年後の学校ビジョン)、運営方針(ビジョン実現のための五年度程度の行動計画)、具体的な数値目標(入学者数、退学者数、就職率、国家試験合格率、奨学金返還率などを五カ年で設定)、年度ごとの実行方針が含まれる。東京ベルエポック製菓調理専門学校の組織目的は、舞浜エリア等のホテル・ブライダル企業との「業界コラボレーション」を通じて、最上級のホスピタリティと技術力を習得させ、高いコミュニケーション力と確実な技術力を持つ人材を養成し、ホテル・ウェディング業界への就職と圧倒的なブランド確立を目指すこと。

③ 教育活動について(教育指要領・シラバス・コマシラバス・レシピの説明)(湯澤)

教育活動は、学園理念に沿って行われ、教育内容、評価方法などが定められている。全学生に配布される「教育指導要領」には、理念、カリキュラム、学則などが明記され、学生と教員の間のルールブックとして機能している

④ 学修成果について

・2024 年度製菓衛生師合格率:75.5%(受験者 94 名中 71 名合格)

2023 年度の合格率は 94.4%(受験者 89 名中 84 名合格)より低下。低下の主な要因はダブルライセンス科 2 年生後期の 5 週間にわたるロングインターンにより再試験の機会が減少したこと、カフェビジネス科の留学生で成果が上がらなかったこと。

・中途退学率:5.4%(在籍学生 296 名中、退学者 16 名)

過去 10 年間で 2 番目に良い数値。退学理由には、メンタルヘルスの問題、学校生活への不適應、進路変更などがある。学園のセーフティネット制度を利用し、グループ校に転校した例もある。2025 年度の目標は 4.7%に設定。

・就職希望者の就職率は100%(100名/100名)

2024 年度の顕著な傾向は、ホテル・ウェディング業界への就職が 50%を占めたこと。(パティシエ科は 7 割)

第一志望合格率も 7 割を超え、年々上昇傾向にある。

⑤ 学生支援について(学生サポートハンドブック、SSC、慶生会説明)

「学生サポートハンドブック」に基づき、カウンセリング研修(一次、二次が全教職員必須)や進路アドバイザースキル、メンタルヘルスに関する研修を受けています。これにより、学生サポートを実践
臨床心理士が常駐してカウンセリングを提供するサポートセンターや慶生会クリニック(内科・歯科)は在学中無料などの支援もある。

就職支援:キャリアセンターだけでなく、担任や事務職員も含めた学校全体で一人の学生を支援する体制。結果、第一希望への内定率は約 7 割(5 ヶ月時点)となっている。

⑥ 教育環境について

国際教育の一環として、フランスおよびイタリアの教育提携がある。2019 年を最後にコロナ禍や渡航制限で中断していたが、2024 年は韓国にて実施、2025 年はフランス・イタリアでの研修を再開の予定。

⑦ 学生募集と受け入れについて

学生募集は「学生集め」ではなく「入学前教育」と位置づけてる。今年度の入学者は 137 名(入学定員 192 名に対し充足率約 7 割、年度により 70%~90%で推移)。

⑧ 財務について

学校職員はグループ企業のサポートにより、学生関連業務に集中できる環境がある。また法人として安定した財務基盤が確立されており、新たな教育投資や学校設立の準備もできている。財務状況はホームページにて公開。

⑨ 法令等の遵守について(個人情報管理ジェイパックについて)

IT・DX 関連のコンプライアンスを特に強化しており、SNS 利用や教職員による個人情報管理など学生・教職員・講師全員にリテラシー教育と試験を実施している。財務状況やカリキュラム等の情報はホームページで公開している。

⑩ 社会貢献について(動画視聴「学内店舗実習」)

ヒルトン東京ベイと連携した子ども食堂を継続的に実施しており、今年度は年 5 回開催予定。スカイツリーのソラマチビル 11 階にある赤十字献血センターと産学連携で 10 代・20 代向けの献血啓発活動も実施

5、委員の方よりご意見・質疑応答

森委員

退学者についてはどの学校種(高校でも)でも多くなっている。目的意識を喪失してしまった学生に対して滋慶学園のスクールメリットを生かして転校などを促せる仕組みがあると良い。

→学校間で連携をして、退学前に希望分野への転校を紹介している。実際に今年もベルエポックの入学生の中にもスポーツや美容分野からの転校生がいる。

竹内委員

生徒のために改善を続ける学校の姿勢を評価する。

上野委員

現場に出ないで、学ぶことの価値を高めるためにも、在学中に学生が自身の特技や得意な部分を見出せるような学びの機会や専門学校ならではの学びのカリキュラムがあるといい。

村山委員

舞浜エリアとの業界コラボやで学生の 50%がホテル・ウェディング業界を目指している点が評価でいる。高校生への集客戦略として、教員と生徒の距離感の近さやアットホームな雰囲気のアピールすることをご提案いただいたした。

古澤委員

産学連携教育や、入学前から在学中の卒後に至るまでのサポート体制について改めて説明を受け、進学先として選んだことに安心することができた。

森委員

定員割れの課題について、原因追求と対策が必要である。また、中途退学について、精神的な鍛え方や大人との接触の仕方、我慢させる試みなども必要ではないか、とのご提案をいただく。

6、閉会の挨拶(井上学校長)

さまざまなご意見をいただきありがとうございます。学生の多様化に対応し、教職員が教育成果を追求して卒業後の活躍を前提とした学校運営を行うよう今後も教育システムを工夫していく。またいただいたご意見もしっかり反映、検討してまいります。

以上